自己評価結果公表シート

みいけだい幼稚園

1. 本園の教育目標

人、社会、自然に貢献できる人創りを教育理念とし、日々の様々な取り組みを通じて、子どもたちの基礎能力（体力・集中力・忍耐力）を育む。また、一人ひとりの長所を褒めることで、自信と成長に繋がると信じ、幼稚園教諭が１人ひとりの子どもたちの存在を認め、子どもたちが喜ばれるために存在していることを伝えていく。

2. 本年度、重点的に取り組む目標・計画

１歳児クラスから５学年での幼児教育・一貫教育を展開していく。本園の教育内容を軸に低年齢児からの子どもの育ちについて、今一度、教職員の共通理解をはかり、再構築を図る。

教員の育成、家庭との連携、保護者の方の保育参加も新たな取り組みとして展開する。

小学校との連携強化の取り組みとして、1学期に1回交流を強化して、相互の関係性を深める。

3. 評価項目の達成及び取組状況

評価項目	取組状況
幼稚園の教育課程の編成について全教職員の共通理解をする。	園内で勉強会を設け、本園の教育目標と照らし合わせたり、現実の保育に沿わせるように具体的な場面について話し合う。
学期ごとに各クラスの経営の成果と課題を報告する。	各クラスで月や週の目標を定め、毎週学年ごとに達成状況や計画を報告し合うようにしている。
園内研修の充実を図り、幼児の主体的な活動が確保できるようにする。園外研修に参加し、教職員の資質向上を図る。	全教職員の参加のもと子どもの姿を把握できるように取り組み、実践していく。各種研修会でや研究会に参加し学んだことを資料にまとめ職員間において提供し、共有化を図るようにしている。
保護者の幼稚園教育の理解と子育て支援、家庭支援の再構築に努める	園の教育方針や取組を情報発信するように園だよりやブログ・メール配信にて記載し、積極的に園と家庭との教育連携をとる。子育て相談を実施（電話相談・個人相談）。 毎月在園児及び未就園児対象に1回ずつ園庭開放を行う。 未就園児親子教室を行い、子育ての手助けや親子で楽しむ場を作り、子育てを楽しむ機会を作る。 誰でも通園制度の利用開始に伴い、保護者の方に子育ての負担軽減と、子育ての喜びを深めてもらう。
優秀な教員の確保と育成	労働環境、給与面、カリキュラムや行事等も見直す。先輩からの温かく細かく丁寧な指導の積み重ね、個人面談で悩み等聞く機会を増やす。学生有償ボランティアの実施。

安全指導	火災・地震時の避難訓練、不審者の声掛けなど安全についての意識を高める指導を強化する(月１回の訓練実施・避難タイム計測実施) 特に避難訓練については、様々な状況設定して訓練を重ね、どんな状況でも子どもたちを安全に非難できるようになってきている。 また、園児たちにとっても毎月の避難訓練を通して生命を守ることの大切さを学び、防災意識を高めることに繋がっている。
小学校との連携	5歳児と小学生が楽しんで交流できる場を小学校と幼稚園で交互に計画し、幼児期の遊びを通した学びと、小学校の教科教育への不安解消や、子どもの主体性、社会性の育成、入学の不安の軽減を目指します。

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

取り組むべき課題と園の方向性について、全教職員が共通に理解をし、関係者からの評価を誠実に受け止めながら、本園としての方針を明確にすることができ実践に結び付けている。

5. 今後取り組むべき課題

課　　題	具体的な取り組み方法
園内教員研修	外部講師を招聘しての園内研修により、研究主題についての共通理解ができ研究の視点を明確にする。 5領域のバランスのとれた保育を提供していく。
自己点検、自己評価	基本項目を点検課題として挙げているので、各教諭においてはさらに課題をあげるようにし、自己研鑽にとりくむようにする。
子育て支援の充実を図る	地域の就園前児及びその保護者を対象として園庭解放・ふれあいタイム・親子のコミュニケーションを育める空間の更なる提供を図る。
自園の再評価	学校評価をふまえた本園の教育内容、自己点検、自己評価の在り方について教育の見える化に取り組む。

6. 学校関係者の評価

特に指摘すべき事項はなく、妥当であると、認められる。

7. 財務状況

公認会計士の監査を受け、適正に運営されていると認められている。